■ 不当な差別的取扱い

(令和5年度)

No.	地域	相談者	障害者の性別	障害者の年代	障害の種類	事例が生じた場面	事例の内容・経緯・背景	事例を解消するための対応
1	南部地域	障害者	男性	30代	精神障害	賃貸契約	<ul style="list-style-type: none"> ・不動産会社へ事実を確認したところ、以下のとおりであった。 「他社に申し込んだ件で保証会社の審査に通らなかった理由は、当社にも教えられておらず、審査内容についても開示はされない。」 「生活保護受給者にも多数貸しているが、貸すための条件として保証会社の保証を受ける必要がある。」 「該当管理物件は全て同じ保証会社を使っているため、管理物件を貸すことはできない。」 「他社の物件も探してみたが、全て断られてしまった。」 「断られた会社について教えることは当社の信用問題になるため答えられない。」 「受給理由等詳細を伺って断るというケースはある。」 「会社として、精神障害があるからといって門前払いという対応はないが、もし門前払いとれるような対応があったのであれば、申し訳ないと思う。」 「緊急連絡先となるような人がいない場合などがあると保証会社の審査に通らないため、お断りするケースはあり得る。」 ・当該不動産会社に対して、今後障害がある人が相談があったとき、相談に乗ることを徹底するよう依頼。 ・今後、居住支援事業を活用し、物件探しを進めることになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不動産会社へ事実を確認したところ、以下のとおりであった。 「他社に申し込んだ件で保証会社の審査に通らなかった理由は、当社にも教えられておらず、審査内容についても開示はされない。」 「生活保護受給者にも多数貸しているが、貸すための条件として保証会社の保証を受ける必要がある。」 「該当管理物件は全て同じ保証会社を使っているため、管理物件を貸すことはできない。」 「他社の物件も探してみたが、全て断られてしまった。」 「断られた会社について教えることは当社の信用問題になるため答えられない。」 「受給理由等詳細を伺って断るというケースはある。」 「会社として、精神障害があるからといって門前払いという対応はないが、もし門前払いとれるような対応があったのであれば、申し訳ないと思う。」 「緊急連絡先となるような人がいない場合などがあると保証会社の審査に通らないため、お断りするケースはあり得る。」 ・当該不動産会社に対して、今後障害がある人が相談があったとき、相談に乗ることを徹底するよう依頼。 ・今後、居住支援事業を活用し、物件探しを進めることになった。
2	西部地域	障害者	女性	60代	視覚障害	飲食店	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者が盲導犬、ヘルパーとともに団地内にある飲食店を利用しようと訪れたところ、盲導犬を伴っていることを理由に入店を拒否された。(テラスの利用ならよいとのことだった。) ・ペットではなく、盲導犬であることなどを説明したが、入店はできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店長に確認したところ、「団地内でペットを飼育が禁止されていることから、団地内の店舗へ犬を伴って入店することはできないと認識しており、入店をお断りした」とのこと。 ・その後、団地の管理会社に確認したところ「補助犬を伴っての入店は問題ない」旨の回答があった。 ・当該店舗に対しては、障害者差別解消法で規定する「不利益な差別的取扱い」に該当する可能性があることを説明し、理解してもらった。 ・なお、当該店長は着任して1年程度であり、補助犬への認識が不足していた。謝罪の言葉があり、今後はこのようなことのないよう対応したいとのことであった。 ・相談者に顛末を説明したところ、納得していただいた。
3	西部地域	事業者	女性	不明	聴覚・言語障害	行政・公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく開設される給食センターの住民向けの見学会に、聴導犬を伴って参加できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食センターの担当課から、見学は可能と回答。 ・その際、①職員による筆談ボードによる案内、②手話通訳者による案内のどちらを希望するか提案した。 ・相談者の都合が悪くなり、見学会には出席しなかった。
4	西部地域	障害者	女性	50代	聴覚・言語障害	交通・移動	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー配車のためハイヤー会社に電話したが、「何を言っているのかわからない」と電話を切られた。 ・改めてかけなおすと別の職員が「配車には1時間くらいかかる」と言われたが、1時間経っても一向に配車されなかった。 ・本社にも苦情を伝えたが改善されなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者へ確認したところ、「乗車日時の特定及び事実の特定が困難」とのことだった。 ・後日、当該運転手の特定により企業内での聴取調査内容の報告があり、迎車場所や着地場所が特定できず配車困難であったとのことだった。 ・今後、再発防止に向けた社員教育を実施することのこと。
5	東部地域	保育園を利用する園児の保護者	女性	10歳未満	知的障害・発達障害	保育	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の親子レクリエーションの際に、保育士から、「いつも仲良くしている園児同士」として色テープに園児の名前が書かれたものが配布された。 ・相談者の子どもについては、無色のテープであり、本児のみでペアがいなかった。 ・保育園には、障害がある子どもと事前に通知しており、理解した上で通所しているはずであるが、本児に「友達がいらない」というイメージとしてほかの保護者が受け止めたかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉担当課から、保育担当課に相談内容を報告し、事実であれば客観的に見ても差別的取扱いと受け取られてもおかしくないことを共有した。 ・保育担当課から保育園に事実確認を行った。 ・保育園側からは、差別する目的はなかったとのこと説明があったが、差別的取扱いと受け取られてしまったことは事実であり、保護者と面談して謝罪することとなった。 ・保育園と保護者との面談が行われ、保育園側は、差別する意図はなかったが、結果として差別的取扱いとして受け取られてもおかしくない状況を招いてしまったことを保護者に謝罪。今後留意することを説明し、保護者の理解を得た。 ・保育園は障害者差別解消法について職員に対する研修の場を設け、同じような処遇が行われないよう防止策を行った。